やり直しのできる社会を！

新宿連絡会NEWS

2006.2.15
VOL. 43

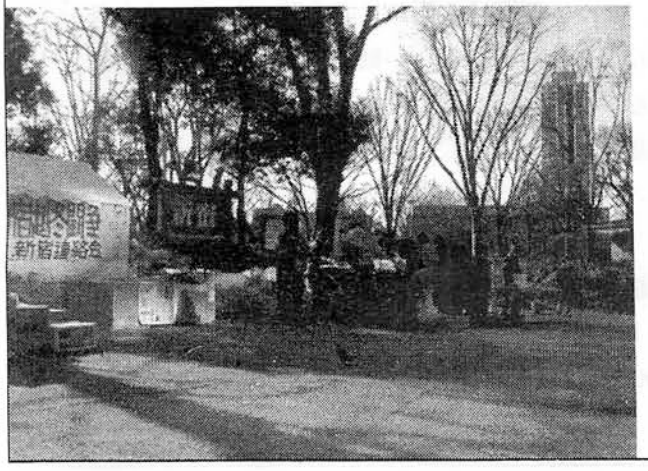
新宿野宿労働者の生活・就労保障を求める連絡会議
〒111-0021東京都台東区日本堤1-25-11
山谷労働者福祉会館気付
TEL.090-3818-3450 FAX.03-3373-9878
http://www.tokyohomeless.com

あの年の冬も雪が多かった

新宿連絡会　笠井和明

中央公園に越年の舞台が移動してから７回目の冬。あの当時は確かに今程ぐらいしかテントの数がなく、こんな殺風景な場所で越年かよとビル風に打たれ冷たく冷えたポケットパークに自分用のダンボールハウスを黙々と作った日が思い出された。

長野オリンピック開催の朝、西口地下広場に火災が起き、生き残った仲間は、暫定自立支援センターへ行くか、中央公園や戸山公園に場所を移して野宿を続けるのかの選択が問われた。あの悲劇を目の当たりにし、野宿を続けようとは決して言えなかった私達は、避難施設を確保した後、事の成り行きを見守った。ダンボールハウスにブルーシートを張り公園を拠点に生活を続けようとする者もいた。今と比べて決して十分とは言えなかった暫定自立支援センターから戻って来た仲間もいた。ちりじりになるまいとあらゆる手を講じたものの、現象としてはやはりちりじりにさせられたのも事実である。



公園は意外にも多くの仲間を受け入れてくれた。当時丁度景気がドン底、都会には破綻した地方から多くの失業者が流れついていた。それと相俟って「ホームレス問題」が一気に社会問題に浮上、それまでの「自業自得論」では解決不能と考えられ始め、行政の施策面でも自立の支援が盛んに云われ、また法制化の議論がようやく出始めた頃でもあった。そんな社会風潮もあり、公園管理者は施策に期待をし厳格な管理を躊躇した。

越年炊き出しで実数800名などと云う今では信じられない記録を出したのもそんな頃であった。当時は「都庁の真下にそんないつまでもいられる筈はないよ」「2年経ったらまたどこかへ追い出されるのさ」なんて雑魚話を皆していたが、いつまで経ってもそんな気配はない、それどころかいつの間にかに中央公園や戸山公園はテントだらけになり、お決まりの「縄張り」の形成と「内部抗争」に明け暮れる事となった。爆弾騒動なんて訳のわからない事もあったし、テント火災なんてのもしょっちゅうあった。暴力沙汰やテントの中での路上死、その度に社会との決定的な亀裂にならないよう駆けずりまわった。

凝縮され尽されたダンボール村の矛盾に比すれば、それは可愛いものだったのかも知れない。しかし、西口地下広場火災前のあのすさんだ雰囲気

は否でも感じざるを得なかった。

長年こんな事をやっていると判るのであるが、この世界で一番怖いのは撤去でも襲撃でもない。一番怖いものは、人が荒んで行く事であり、それが崩壊への道筋である事を私達は身体で知っている。

時代が同情論から変り始め、景気もドン底ではなくなり、「自己責任」がもてはやされ、管理者の忍耐もついに一線を超えそうになった折りに開始した（私達は上記の理由により強引に開始させた）「地域生活移行支援事業」はあらゆる意味での「路上の悲劇」を再び繰りかえす事態への進行を食い止めた。少なくとも私達はそう評価している。

あの当時のような中央公園、長い長い、長すぎた２年をようやく乗りきったかのようなそんな感のある中央公園で今年の越年は取り組まれた。

そして、また長いたたかいになる。そんな思いがし、あの時のようダンボールハウスを作り、そこに泊った。この一週間、ここは路上のパラダイスである。思いっきりの夢を見せてやろうと思った。思いっきりの信頼を寄せてやろうと思った。仲間や友情と云う思いっきり臭い言葉の意味を実践しようと思った。

何があった訳でもない。いつものよう飯を一緒に炊き、飯を一緒に食い、酒を一緒に飲み、新たな出会いを喜び、この時代を笑い、そして「また会おう」と抱き合い、手を振っただけである。

ここに集い、ここで笑いあった仲間は私達の永遠の仲間である。生き抜く事が苦しい事なら、嘘でも良い、きっと春は来ると信じたいものである。夢を語った者の責任として、せめて最後まで看取ってやるのが人としての道であると思うのである。

幸いにして気温は低いものの2日に雨が降った程度で気候の大荒れはなく越年期間中は私達が確認する限りで路上死は確認されなかったが、明けて７日、新宿西口で新しく来たと思われる仲間が凍死すると云う事態を突きつけられた。

パトロール網をくまなく張り巡らせる初期型活動の再実践が求められ、パトロール班では早速年明けから臨時パトロールを波状的に行い情報網の再構築に向けての実践に踏み出している。冬はいつものよう仲間の命を奪う。季節に抗する虚しさを胸に、それでも「そうじゃない」と心に刻みながら。

炊き出しに並ぶ仲間の数が例年よりも減って平均300名程度であったものの、狭いポケットパークからはみ出さず逆に例年以上の落ち着きを見せる結果ともなった。これまでが余りにも多すぎたのである。

娯楽関係も大須賀ひできさん、ラビィサリの皆さん、病み上がりにも関らず駆けつけてくれたクーペさん、異様な盛り上がりを見せた越路姉妹の皆さん、そして恒例の五十嵐正史とソウルブラザーズの皆さん、梅津和時さんと史上最多の５組の方が参加して頂き、楽しい年越しコンサートだった。また、年明けの餅つき大会時にはこれまた長いおつきあいのさすらい姉妹の皆さんによる路上劇も多くの仲間が楽しんでくれた。いつも本当にありがとう！

路上に残された者にどんな希望を示せるのか？路上から脱却した者にどんな夢を託せるのか？2006年の苦悩がまた始まった。

第12回パトロール班報告

新宿連絡会　上釜一郎

■ パトロール班の役割

新宿連絡会は05年12月29日～06年1月4日の期間、第12回越年集中闘争を行った。

毎年この期間は、仕事がなくなり飯場等から出てきた日雇い労働者、福祉事務所や病院などの機関が休みになり公的援助にアクセスしにくくなったホームレス状態の方が街にあふれる。

新宿中央公園ポケットパークを拠点に炊き出し班が食事、医療班が医療を提供する定点的な活動が中心である一方パトロール班はアウトリーチ活動が中心であり、通年的な活動から顔見知りになっている方のみならずホームレス状態になったばかりで駅周辺の繁華街などで文字通り路頭に迷っている方に対しても広くアプローチを行い、経済的のみならず、気候的にも非常に厳しいこの期間を「生き抜く」ため拠点に繋ぐ役割を担う。

■ パトロール活動の内容

パトロール活動の内容は情報提供と安否確認に大別される。

情報提供の内容は、極寒のなか野宿する術を知らない方には食料や衣類、医療（24時間体制の医療テント）の提供できるポケットパークや雨風の凌げる西口地下広場への誘導を行った。また、公的援助や機関を知らない方には年明けの福祉行動や厳冬期宿泊、自立支援事業等の情報提供を行った。越年期間前半は主にポケットパークでのイベントの周知に、後半は公的援助の情報提供に努めた。

安否確認は「こんばんは新宿連絡会です」「お体の調子はいかがですか」という基本的な声掛けから始まり、要医療対応者を発見した場合、症状がごく軽度な場合は携帯している市販薬を配布した。市販薬は医療班からの提供で風邪薬、胃薬、整腸剤、鎮痛薬、かゆみ止め、シップ、バンドエイド、市販薬ではないが保温効果のあるレスキューシートを携帯した。

専門的な対応が必要と思われた場合は医療テントに待機している当番の医療従事者に電話で連絡を取り、専門家からの指示を仰いだ。

また、医療相談会が無い時間のパトロールには主に看護師がパトロールに同行して医学的に人体に触りなれていないパトロール班に変わり脈をとったり、専門的な質問に対応し、医療相談会への顔つなぎを行った。

■ パトロールの構成

今回の越年期間は、ホームレス状態の方の属性によって異なる就寝する時間帯と就寝する場所に対応してパトロールを3部構成で行い、隈なくアプローチした。

以下に各パトロールの時間帯とアプローチできるホームレス状態の方の就寝する場所の概要等を述べる。

1次パトロール（20時～22時過ぎの間）

アプローチできる方は、大きな公園などに生活の拠点（ブルーテントなど）を持ち、比較的時間の制約もなく早い時間から就寝できる方。

20時以降営業を終了した公共施設（図書館など）、専門学校や企業のビルの軒下でダンボールなどで小屋掛けをして就寝する方。

地下街や地下鉄の地上への連絡口の内側で営業が終了するまで暖をとっている方。

新宿駅を中心に広域を4班体制で対応した。

2次パトロール（22時半～24時過ぎの間）

アプローチできる方は、1次パトロールの地域に安定した就寝場所を持たず、22時以降順次営業を終了していく4号街路の飲食店等の前にダンボールなどで小屋掛けをして就寝する方。

23時以降新宿駅西口の地下広場とメトロプロムナードを連絡するA15番連絡口のシャッターが閉鎖した後に新宿駅西口の地下広場にダンボールなどで

小屋掛けをして就寝する方。

4号街路と新宿駅西口の地下広場を集中的に1～2班体制で対応した。

3次パトロール（24時～26時の間）

アプローチできる方は、1次パトロールの地域に就寝場所を持っているが、ガードマンによる巡回および退去指導があるため就寝時間を遅らせている方。

終電後のシャッターの閉まった駅舎の軒下で就寝する方。

営業が終了しシャッターの降りた地下街や地下鉄の連絡口の階段（シャッターの外側）にダンボールなどで小屋掛けをして就寝する方。

昼夜逆転の生活をして夜間は寒さを凌ぐために歩き続けて（流動して）いる方。

1次パトロールのコースを日替わりで1コースずつおよび新宿駅周辺を1班体制で対応した。また、戸山公園（大久保地区）も1月1日にアプローチした。

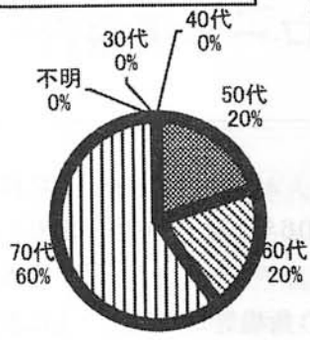
■ 人数の推移

人数のカウント方法は、各パトロールの時間帯に就寝体制を取っている方、地下街に通じる階段などで座って休んでいる方、横になっている方も対象とした。1次と2次ではカウントした人数に若干重なりがでている。

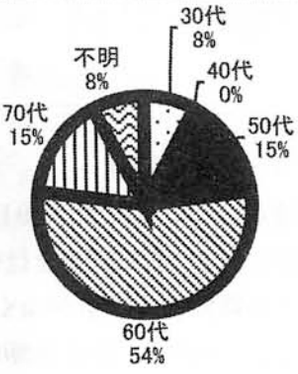
また、1次パトロールは全体としては第11回と同じ地域をフォローしているが、各コース間で担当地域の移管が若干おこなわれている。そのため今回はコースごとの第11回の人数は記載していない。

なお、第11回の報告時には中央公園コースを加算していなかったが、今回の（　）内の人数は中央公園コースを加算したものになっている。

医療テントへの誘導・保護



医療相談・福祉行動への呼びかけ



第11回と比較し第12回は1次パトロールでは平均86人の減少、2次パトロールでは平均56.8人の減少となっている。第11回での人数の減少は新宿地区での地域生活移行支援事業利用者の影響が顕著だったと思われる。第12回での人数の減少は、05年の年明けに新宿地区で同事業を利用しアパートへ移行した方と他地区の同事業を新宿から流入して利用しアパートへ移行した方の影響が大きいと思われる。

■ 特徴など

● 医療・福祉対象者の年齢構成から

パトロール活動から医療相談・福祉行動へ呼びかけた方の人数は30代が1人、40代が0人、50代が2人、60代が7人、70代が2人、不明が1人の計13人。他に医療テントへ誘導して保護した方の人数は、30代が0人、40代が0人、50代が1人、60代が1人、70代が3人の計5人である。両方とも60代と70代の高齢者を合わせると全体の約7割から8割を占める。

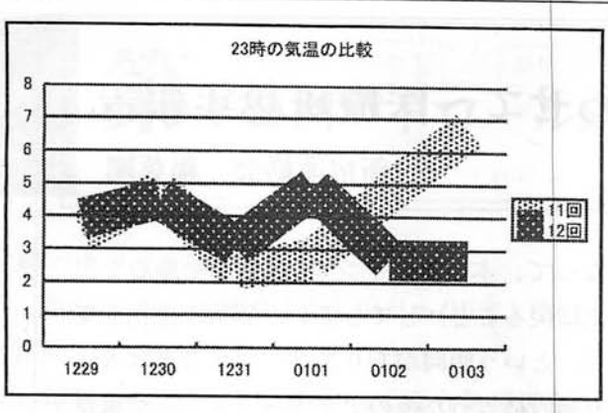
上記の高齢者に聞き取りを行うと、概ねが新宿での（居宅、路上問わず）生活歴があり、NPOに誘われ他県の宿泊所で生活保護を受けた後自己退所し、新宿に戻ってきた等過去に保護歴のある高齢者が目立った。

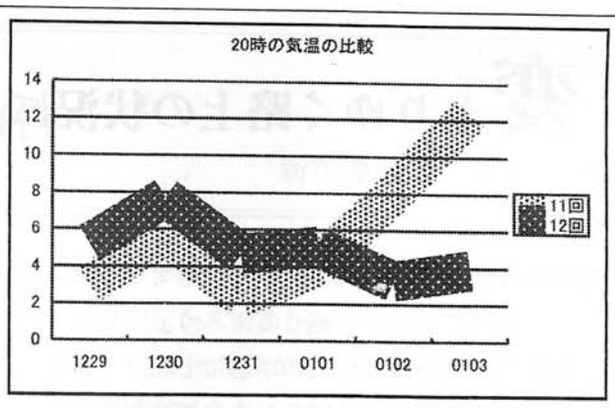
● パトロール中の気温の比較から

気温のデータは「気象庁ホームページ」より

第12回越年での新宿駅周辺で出会った仲間の人数　＊（　）内は第11回の人数

	12/29（木）	12/30（金）	12/31（土）	1/1（日）	1/2（月）	1/3（火）
中央公園コース	104	／	／	114	129	／
西口コース	46	59	／	73	92	59
北口コース	25	36	／	37	41	37
東口コース	／	83	／	／	／	103
計	175（289）	178（247）	／	224（308）	262（336）	199（288）
4号街路	44（68）	58（104）	46（60）	76（65）	61（95）	76（104）
地下広場	70（123）	99（135）	77（80）	122（111）	98（150）	109（182）
計	114（191）	157（239）	123（140）	198（176）	159（245）	185（286）
総計	289（480）	335（486）	／	422（484）	421（581）	384（574）





引用した。

(http://www.jma.go.jp/jma/index.html)

1次パトロールの20時と2次パトロールの23時の気温を第11回と第12回で比較してみた。両方とも期間中の波はあるが、年をまたぎ上昇傾向にあった第1 1回と比べ、第1 2回は下降傾向にある上、期間初日よりも気温は下がっている。

気温の影響からか、第11回は年が明けると後から越年に参加したホームレス状態の方がポケットパークの大テントに宿泊しきれないため大テントの周りにダンボールハウスなどで多数アオカンしていたが、第12回は天候に恵まれていたにもかかわらず皆無だった。

パトロール班としての防寒具の配布は第11回、第12回ともにホッカイロを1日約100枚ずつ配布する他、毛布を期間中約20枚配布したが、第12回では毛布の配布後、レスキューシートを約100枚配布している。

レスキューシートの配布は今回の越年がほぼ初めてであり、実用性よりも外見のイメージ（折りたたむと約10cm四方、広げると約213×137cmになるアルミを吹き付けた銀色のシート）が中高年中心のホームレス状態の方にどれだけ受け入れられるか予想がつきにくかった。しかし、配布する側の予想を裏切り速やかに受け入れられ、新宿という施策の最前線で生きる方が持つ適応性の高さを感じさせられた。

■ 越冬につづくパトロール

パトロール班では越年終了後、通常のパトロール以外に1月11日から2月22日までの越冬期間中毎週水曜日に2次パトロールを臨時で行っている。

大田寮の厳冬期宿泊の抽選が毎週木曜日であるため、寒波の影響から体調を崩し軽度な療養の必要性がある方には翌日の抽選会への参加を勧めている。

また、厳冬期宿泊開始時に宿泊し再び路上に戻ってきた方への対応も求められている。

年が明け仕事が始まったにもかかわらず、例年以上の冷え込みが続き、路上には越年明けという仕切りなおしも空しく停滞感が漂っているように感じる。むしろ厳冬期宿泊利用者には4月まで定例の自立支援事業が利用できないという条件があったということを改めて実感させられる越冬期間となるかもしれない。

対策の前進からホームレス状態の方の人数が減少したことは事実だと感じるが、対策の成熟への道のりは険しく長い。対策がすべてのホームレス状態の方の手に届くまで運動団体としての社会活動も行う一方で私たちは路上のインフラとして安定したサービスを供給し続けたいと思っている。

■ 最後に

炊き出し班や医療班との連携のもと3部構成のスケジュールを無事消化できたのも日頃から参加・協力していただいているホームレス状態の方々やボランティアの方々、また越年期間中一日でも参加していただいた皆様のおかげだと思っております。今後ともご理解とご協力をお願いいたします。

以上

変わりゆく路上の状況にあわせて～医療班越年報告

新宿連絡会　稲葉剛

「今回の越年は全体の人数も減ってきていることだし、医療班も楽に年を越せるだろう」というのが、越年開始前のおおかたの予想でした。しかし、フタをあけてみると医療テントは例年以上の忙しさ。特に比較的高齢で重症の仲間が相次いで救急車で運ばれる、という結果になりました。

越年期の救急入院は計4人。そのうちお一人は2度救急搬送されても入院に至らず、「三度目の正直」で入院になりました。1月4日の福祉行動で施設に入所した高齢の仲間も5人にのぼり、今回の越年で医療班は「路上の高齢者問題」に直面した、という印象を持ちました。医療テントで一時保護した仲間の中には、トイレなどの介護が必要な方もいらっしゃり、交代で入った看護師が対応に追われました。

越年期間に出会った重症の仲間の中には、かつて入院したり施設に入所したりして生活保護を受けたことのある仲間も何人かいました。しかし、アルコール問題、居住環境の悪さ、隣人トラブル、医療機関と福祉事務所の連携の悪さなどがきっかけとなって、本人が「トンコ」（病院や施設を出て路上に戻ること）してしまい、病状が悪化してしまう、という傾向があります。このことは入院したり施設に入った後のアフターフォローが重要であることを示しています。

医療班ではこれまで、新宿の路上にいる多数の仲間のニーズに対応するため、「医療機関へのアクセス」を改善するということを最重要課題にしてきました。ボランティアの医師が書く「紹介状」を活用することによって、福祉事務所の敷居を低くさせ、医療機関につなぎやすくすることこそ、医療班の存在意義であったといって過言ではありません。そのことはこれからも変わりませんが、「炊き出しに来る人の数は減っても、重症化する人の数は減らない」という事態を受けて、今後の活動のあり方を考えていきたいと思います。

すでに越年終了後、有志のメンバーで手分けして、入院した方の面会に取り組んでいます。状況の変化に柔軟に対応できる活動を展開していきたいと思います。

＊越年期救急入院

61歳男性　肝硬変、歩行困難　30日山川病院入院
60歳男性　無気肺、血痰（後日、肺癌と判明）　30日都立大塚病院入院
70歳男性　発熱・腹痛　31日大久保病院入院
72歳男性　全身浮腫、歩行困難　3日大久保病院入院

＊2006年1月4日新宿福祉行動記録
(病院名は受診した病院、施設名は入所した施設を示す。)

＜紹介状あり＞

70歳男性　頭部外傷、高血圧、歩行困難（医療テント保護）→銀扇閣
67歳男性　左ソケイヘルニア疑い→社会保険中央　ウェルハウス大久保
67歳男性　腰痛→新大久保寮　5日に受診予定。
69歳男性　左膝関節痛→春山外科　歯痛→新大久保歯科　新大久保寮
65歳男性　胃潰瘍、感冒、るいそう→医療センター　新大久保寮
43歳男性　左膝関節炎、水腫→東京医大
58歳男性　咳・痰（結核治療終了後）→新宿保健所で後日検査
49歳男性　咳、咽頭痛、関節痛→東京医大
54歳男性　背部粉瘤、陳旧性梗塞　相談員「あんたはダメ」→話し合いの末、5日に医療センター受診へ。
52歳男性　両下肢ASO疑、左下肢レイノー現象→東京医大
49歳男性　頚椎神経根症状→東京医大
35歳男性　右上部肋骨骨折疑、左側腹部痛→社会保険中央病院
61歳男性　糖尿病治療中断→医療センター
41歳男性　歯痛→市川歯科
27歳男性　発疹→症状が改善してきたので就職活動優先。履歴書・写真・交通費支給

＜紹介状なし＞

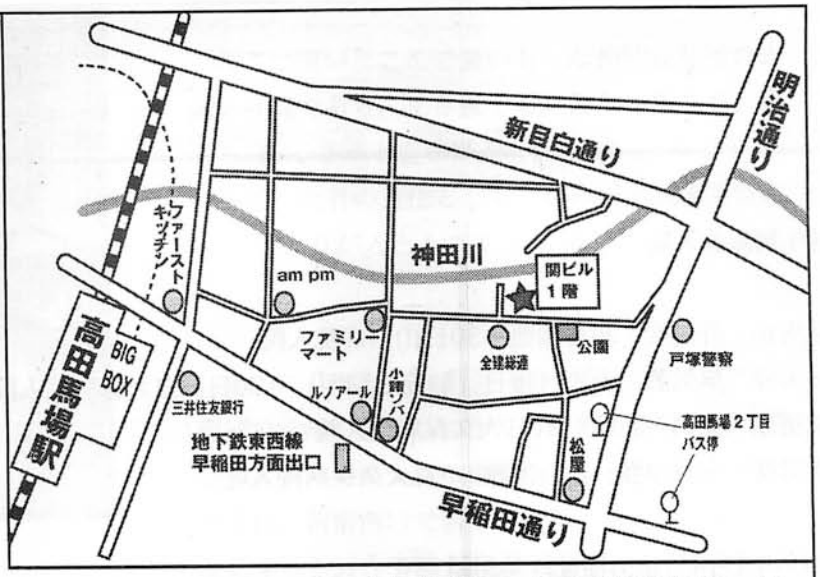
39歳男性　視覚障害　中部地方で生保受給中。所持金なし。
　　→新宿連絡会医療班から交通費貸付、後日返済完了。
41歳男性　左側足・腰の腫れ、胃痛→5日東京医大受診予定

連絡会、高田馬場でシャワーサービスを開始！

新宿連絡会医療班では、高田馬場に事務所があるＮＰＯ新宿の協力を得て平日のシャワーサービス、衣類提供サービスを開始しました。

福祉事務所のシャワーサービスは使い勝手が悪く、また、あまり利用頻度が多いと「ここは風呂屋ではない！」と言われる始末。しかし、衛生面、健康面からも身体を清潔に保つ事はイロハのイ。また、面接に行く時などもしっかりと身なりを整えなければ採用もしてくれない。

そんな訳で緊急性とニーズの高いこの問題を独自のサービスで解決しようと事務所風呂場をシャワールームに改修し、多くの仲間に使ってもらっています。場所柄、池袋の仲間も多く訪れ、交流の場としても利用されています。また、月に一回（第2日曜）、歯科健診会も実施し、歯垢落しなど屋外でなかなか出来ない簡単な治療の場としても活用されています。



越冬ボランティア募集！

新宿炊出し（準備・片付け）
毎週日曜　午後6時より7時半
ところ　新宿中央公園

医療相談会
毎月第2日曜日
ところ　午前10時より正午
戸山公園
午後6時より8時
中央公園

パトロール（夜回り）
新宿駅周辺　毎日曜　午後7時半～
戸山公園　毎水曜　午後６時～

越冬パトロール　毎水曜日
午後10時半～（2月まで）

＊お問い合わせ先
090-3818-3450（笠井）もしくは、メール
shinjuku@tokyohomeless.com

越冬闘争資金カンパ
毛布、冬物衣類（男物）
ホカロン、医薬品
まだまだ募集中!!

新宿連絡会
2005年11月～2006年1月
会計報告

連絡会活動への物品カンパ、現金カンパありがとうございました。引き続き越冬活動後段の資金、物資カンパを宜しくお願い致します。

【カンパ先】郵便振替口座
00170-1-723682「新宿連絡会」

収入)		支出)	
炊出部門寄付	102,500	炊出し事業費	254,348
活動部門寄付	2,000	パトロール事業費	5,618
越冬部門寄付	1,250,953	その他の活動費	8,400
通信部門寄付	12,500	福祉活動事業費	2,160
その他寄付	183,900	自立支援事業費	97,610
借入金	141,062	教宣活動事業費	310,741
		越冬事業費	724,685
		事務費	5,007
		文化娯楽事業費	54,107
		池袋関連事業費	121,000
		雑費	5,110
		返済金	104,129
合計)	1,692.915	合計)	1,692,915